

## 悪魔的 Fortune とリッドゲイトのその意識

### ——『トロイの書』と『王侯の没落』との Fortune 描写の比較\*

轟 義 昭

John Lydgate の作品を考察する場合、運命のテーマを避けて通ることはできない。Philippa Tristram が述べるように、<sup>1</sup>中世においてリッドゲイトほどそのテーマに悩まされた (“obsessed”) 人はいないからだ。この論文における筆者の試みは、彼の二つの翻訳作品『トロイの書』(*Troy Book*<sup>2</sup> 以下、TB と略記) と『王侯の没落』(*Fall of Princes*<sup>3</sup> 以下、FP と略記) において運命の女神 (Goddess Fortune) の性格・性質を表す言葉や語句に着目し、表現の特質を比較することによって詩人リッドゲイトの運命観の展開を示すことにある。つまり、TB よりも FP の Fortune を一段と悪魔視する作者の意識を明確化することにある。

以下のように分析を進めていく。

- 1 TB と FP との Fortune の比較の可能性
- 2 品詞分析による Fortune の悪魔化理解の可能性
- 3 Fortune の性格を示す名詞の分析
- 4 Fortune の性格を示す形容詞の分析
- 5 女神及び彼女の称号に冠する形容詞の分析
- 6 運命の車輪に冠する形容詞の分析

#### 1 TB と FP との Fortune の比較の可能性

TB と FP の原典の相違により Fortune の比較は不可能であると疑問視する人がいても不思議ではない。その疑問に答えるべく、まず Fortune の比較の可能性を説こう。

TB の序詩に述べられるように、多くの作家——例えば Dares, Dictys, Guido ——がトロイ戦争を題材にした物語を作っている。リッドゲイトは Guido delle Colonne の *Historia Destructionis Troiae* を典拠として TB を英訳したと述べる。

Laud and honour & excellence of fame

O Guydo maister, be vn-to thi name.

That excellest by souereinte of stile

All that writen this mater to compile.

Whom I shal folwe as nyȝe as euer I may, (Prolog. 371–375)

(イタリックは筆者) <sup>4</sup>

だが、Guido の *Histria* を典拠とした他の M E (Middle English) 作品 *Destruction of Troy*, *Laud Troy Book* と比較するとわかるように、TB は脱線 (digression) という修辞技巧により Fortune に関する描写が非常に多い。つまり、リッドゲイトは運命の寓意によってトロイの歴史を飾ろうとしている。このことから Fortune に関する描写は作者自身のものと言うことができよう。<sup>5</sup>

一方、FP は Giovanni Boccaccio の *De Casibus Virorum Illustrium* を Laurence de Premierfait の仏語訳 *Des Cas Des Nobles Hommes et Femmes* を通じて英訳された作品である。リッドゲイトは「運命の歴史書」('a history of Fortune') <sup>6</sup> と呼ばれる *De Casibus* の内容に忠実に従おうとするばかりでなく (Prologue 232-233), 彼のパトロン Gloucester 公 Humphrey の命により個々の物語の終わりに結句 ('Lenvoye') を付け加えてモラルも説いている。

This myhti prynce, riht manli & riht wis,  
Gaff me charge in his prudent auys,  
That I sholde in eueri tragedie,  
Afftir the processe made mencionun,  
At the eende sette a remedie,  
With a lenvoie conueied be resoun, (II. 146-151)

勿論、結句の中でも Fortune の描写はかなりある。従って、Fortune の取り扱いに関する限りリッドゲイトはボッカチオの考えを踏襲しつつ、自らの運命観を論じていると解せよう。

リッドゲイトの修辞文体 (rhetorical style) に関して言うと、George Puttenham が 'one that wrote in good verse'<sup>7</sup> と、そして Stephen Hawes が 'the most dulcet spryng of famous rethoryke'<sup>8</sup> と称賛するように彼の文体は15, 16世紀初めに高い評価を受けていた。TB, FP 双方とも王侯の運命を題材としているのでその文体は high style でなければならない。<sup>9</sup> 同じ Style によるので、もし Fortune の性格・性質を表す言葉や語句に相違があるとすれば、その相違は単に作者の感じ方・考え方によると考えられる。

以上、二つの翻訳作品の典拠は異なるけれど運命観はリッドゲイト自身のものであるので表現的見地から Fortune の実体を比較することは可能であると思う。

## 2 品詞分析による Fortune の悪魔化理解の可能性

異教神 Fortune が中世キリスト教社会において 'Christian Vice'<sup>10</sup> に変身したという事実から、また修道士リッドゲイトが TB の中ですべての異教神を悪魔の友と考え、FP の中で Fortune に対し怪物 ('monstruous beeste') という語を用いることからリッドゲイトの Fortune を悪魔とみなすことは容易である。<sup>11</sup>

For al swiche feined falsnes, oute of drede,  
Roos of þe deuel, and first by his engyn,  
And of his sleiȝti treynes serpentyn,  
Only mankynde whane he made loute  
To false ydoles ; þe whiche, oute of doute,  
*Are but deuēlis, ...* (TB IV. 6996–7001)

What may this meene ? is this a creature  
Or a monstre transffoormyd ageyns nature, (FP VI. 25–26)

Fortune of kynde is so flaskisable,  
A monstrous beeste departed manyfold, (FP IV. 2871–2872)

では、どうして品詞分析が Fortune の悪魔化理解に役立つのか。FP 第六書において Fortune がボッカチオの面前に姿を現す。彼女の容姿はリッドゲイトによって次のように描写される。

Hir face seemyng cruel & terrible,  
And bi disdeyn[e] manacyng of look,  
Hir her vntressid, hard, sharp & horrible,  
Froward of shape, lothsum & odible (VI. 30–33)

顔の様相を説明する形容詞 'cruel', 'terrible', 'manacyng' により、髪の状態を説明する形容詞 'hard', 'sharp', 'horrible' により、そして姿を説明する形容詞 'froward', 'lothsum', 'odible' により、作者は我々読者に Fortune の悪魔的実体を印象づけようとしている。即ち、パットナムが文体は 'the image of man'<sup>12</sup> と言うように Fortune に対する作者の内的想像力が一連の形容詞に現れているといえる。従って 'Epitheton', 'Emphasis' という修辞技巧の分析により、つまり Fortune の性格・性質を表す名詞・形容詞の分析により女神の悪魔化を理解できるはずである。

### 3 Fortune の性格を示す名詞の分析

TB, FP において Fortune の性格を示す最小単位の語、名詞を比較検討するにあたり、便宜上、黒瀬保氏の *Goddess Fortune in John Lydgate's Works* (1980: 67–69) の分類方法に従う。この方法によると TB において47の用例を見出すことができる (資料1を見よ)。この用例数47と FP における用例数194の内訳は図 I のごとくである。

図 I

| 作 品<br>構成要素 | TB    |     | FP    |     |
|-------------|-------|-----|-------|-----|
|             | (用例数) | (%) | (用例数) | (%) |
| 1 変わりやすさ    | 20    | 43  | 107   | 55  |
| 2 気紛れ       | 1     | 2   | 6     | 3   |
| 3 盲目, 横柄    | 4     | 9   | 10    | 5   |
| 4 戯れ        | 2     | 4   | 8     | 4   |
| 5 不実        | 4     | 9   | 25    | 13  |
| 6 無慈悲       | 3     | 6   | 17    | 9   |
| 7 残酷        | 10    | 21  | 10    | 5   |
| 8 妬み        | 3     | 6   | 9     | 5   |
| 10 平等       | 0     | 0   | 2     | 1   |
| 合計          | 47    | 100 | 194   | 100 |

‘Fortune’ という語の頻度数 (TB—52, FP—437) の相違は名詞の用例数にも顕著に反映している。この内訳を比較できるようにそれぞれの構成要素を百分率で表した。図 I において Fortune に対するリッドゲイトの见解を知るうえで注目すべき点は次の二点である。

1) TB において43%, FP において55%の割合を占めるように、双方とも構成要素1, 変わりやすさが Fortune の性格の中核をなす。

2) 構成要素7, 残酷さをみると FP がわずか5%しかないのに対し, TB では21%も占めている。

このように作者の運命観は Fortune の性格を示す個々の単語分析結果によりある程度理解できる。だが、作者の運命観の展開を知ることはできない。つまり、結果1では TB, FP 双方における Fortune の相違は明確でないし、また結果2により FP の Fortune より TB のそれが残酷であると判断するには十分でない。結果1, 2を明確にするために Geoffrey of Vinsauf の説く ‘determination’<sup>13</sup> の理論<sup>13</sup>、つまり名詞は一つの形容詞或いは幾つかの形容詞によって決定されるという理論を適用しさらに分析を進める。筆者は、特に攻撃時における Fortune の性格を示す前置詞 + 形容詞・名詞結合構文に着目する。

この構文で表される用例総数は TB が4, FP が22である (資料2を見よ)。この中で Fortune の変わりやすさを示す用例数は TB が1, FP が10, そして彼女の残酷さを示す用例数は TB が2, FP が4である。

Fortune の変わりやすさを示す用例は次のごとくである。

TB I. 2257 : By hir gery revolucioun

FP I. 2994 : with a sodeyn transmutacioun

III. 667 : With onwar chaung

- IV. 2919 : Bi *vnwar chaung*
- V. 1883 : With *sodeyn chaung* of fals felicite
- V. 2883 : Thoruh Fortunys *froward variaunce*
- \* VI. 359 : Be thi *contreved fals mutabilites*
- VI. 663 : Be my *contrarious mutabilite*
- IX. 1700 : bi hir *fals variaunce*
- IX. 3033 : Be Fortunys *gery mutacioun*
- \* IX. 3044 : With hir most *stormy transmutacioun*

TB において Fortune の変わりやすい性質は構成要素 2, 気紛れを示す形容詞‘gery’により強められる。一方, FP においてその性質は構成要素 2 だけでなく, 構成要素 9, 性急さを示す形容詞‘sodeyn’, ‘onwar’, 構成要素 5, 不実さを示す形容詞‘fals’, そして構成要素 6, 無慈悲さ・邪悪さを示す形容詞‘froward’, ‘contrarious’により強められる。更に興味深いことは, その性質が不実さを示す 2 つの形容詞 ‘contreved’, ‘fals’ により, また most + stormy の最上級により強調される点である。

次に Fortune の残酷な性質を分析しよう。その用例は以下の如くである。

- TB II. 3243 : Of mortal Ire and *gery violence*
- II. 3281 : Of *hasty Ire*
- FP III. 4531 : Thoruh Fortunis *dreedful violence*
- VIII. 2601 : bi Fortunys *sodeyn violence*
- \* VI. 364 : Bi thi *chaungable geri violence*
- \* IX. 443 : Bi hir *forward furious violence*

一瞥して理解できるように FP における Fortune の残酷な性質は, TB のそれと異なり, 構成要素 1 と 2, 変わりやすさと気紛れさを示す 2 つの形容詞 ‘chaungable’, ‘gery’ により, また構成要素 6 と 7, 邪悪さと残酷さを示す 2 つの形容詞 ‘froward’, ‘furious’ により強調される。

上記の二つの表現分析に加え, さらに重要なことは FP において攻撃時の Fortune の性格‘disdeynes’が性急さ・邪悪さ・不実さを示す 三つの形容詞 により強調される点である。

Thoruh hir *vnwar, ougli, fals disdeynes* (IV. 1077)

このように前置詞＋形容詞・名詞結合構文に着目すると, 形容詞＋形容詞＋名詞の形式と形容詞＋形容詞＋形容詞＋名詞の形式は FP にのみ用いられる。運命論研究の立場から言うと, これは, 即ち一本の釘で足りるのにもう一本加える技巧は Fortune の悪魔化を進めようとするリッド

ゲイトの意識の現れと解せよう。

以上、3節を要約すると次のように言うことができる。(1) 個々の単語分析では「変わりやすさ」が *TB*, *FP* 双方における Fortune の性格の中核としかわからないけれど連語 (collocation) の比較により、作者が *TB* の Fortune よりも *FP* のそれに悪意を抱いている、つまり *FP* の Fortune を一段と悪魔視していることが明確になる。(2) 個々の単語分析によると Fortune の残酷さを占める割合は、*TB* が21%, *FP* が5%と前者が多い。だが、連語の比較によると作者の Fortune に対する内的感情は 'Bi thi chaungable geri violence' の語句に示されるように *FP* に強く現れる。

#### 4 Fortune の性格を示す形容詞の分析

*TB*, *FP* において Fortune の性格を示す形容詞を比較検討するにあたり、3節と同様に黒瀬氏 (1980: 64-67) の分類方法に従う。この方法によると *TB* において91の用例を見出すことができる (資料3を見よ)。この用例数91と *FP* における用例数237の構成要素の内訳は図Ⅱのごとくである。

図Ⅱ

| 作 品<br>構成要素 | <i>TB</i> |     | <i>FP</i> |      |
|-------------|-----------|-----|-----------|------|
|             | (用例数)     | (%) | (用例数)     | (%)  |
| 1 変わりやすさ    | 13        | 14  | 50        | 22   |
| 2 気紛れ       | 19        | 21  | 32        | 13.5 |
| 3 盲目・横柄     | 6         | 7   | 12        | 5    |
| 5 不実        | 21        | 23  | 49        | 20.6 |
| 6 無慈悲・邪悪    | 12        | 13  | 38        | 16   |
| 7 残酷        | 11        | 12  | 26        | 10.9 |
| 8 妬み        | 3         | 3   | 1         | 0.4  |
| 9 性急さ       | 6         | 7   | 21        | 8.8  |
| 10 平等       | 0         | 0   | 2         | 0.8  |
| 11 巧みさ      | 0         | 0   | 5         | 2    |
| 合計          | 91        | 100 | 237       | 100  |

パーセンテージの高い順にこれらの構成要素を並びかえてみると、図Ⅲのようになる。

図Ⅲ

*TB* 5-2-1-6-7-3, 9-8

*FP* 1-5-6-2-7-9-3-(11)-(10)-8

*TB* が5-2-1-6, *FP* が1-5-6-2となるように前4つにばらつきが見られる。ここで *TB*, *FP* 双方の編者 Henry Bergen の Glossary (注解付き語彙集) を参照すると図Ⅲから思いがけない結果を得ることができる。彼によると、構成要素1 'chaungable' も 'mutable', 'inconstant' と、そして構成要素2 'onstable' も 'mutable', 'inconstant' と解される。バーゲンは黒瀬氏の

分類する構成要素 1, 2 を同じ部類とし、大雑把にそれを一つにまとめてとらえる方法を我々に提案しているように思える。彼の見方に従うと図Ⅲは次のようになる。

図Ⅲ'

TB [1, 2] - 5 - 6 - 7 - 3, 9 - 8

FP [1, 2] - 5 - 6 - 7 - 9 - 3 - (11) - (10) - 8

TB, FP 双方とも〔移り気〕-不実-無慈悲・邪悪-残酷の順になる。このように個々の単語分析結果は Fortune の性格を構成する上でリッドゲイトの女神に対する観念がほとんど変わっていないことを示す。

だが、most+形容詞、形容詞+est の最上級の用法<sup>14</sup>に、そして副詞 (ay, ever)+形容詞に用法に着目して Fortune の性格を比較すると作者の運命観の展開を知ることができる。

まず、最上級の用法を比較検討する。TB において 2 つ、FP において 14 の用例を見出すことができる (資料 4 を見よ)。これを前述の図Ⅱに従い構成要素別に分類すると次のようになる。

図Ⅳ

| 構成要素 \ 作品 | TB       | FP                            |
|-----------|----------|-------------------------------|
| 1 変わりやすさ  | I .25    | I .112, IV .498               |
| 5 不実      | II .1864 | I .1841, 3118, V .578         |
| 6 無慈悲     |          | III .317, VI .447, 1268       |
| 7 残酷      |          | III .317, VII .3149, IX .3044 |

構成要素 6, 7 では FP においてのみ最上級が用いられる。この中で、特に注目すべきは III . 317, VII . 3149 の用例である。

III . 317 : With the in armis, *most cruel & vengable*,

VII . 3148-49 : But, for al that, the disposicioun

Of Fate and Fortune, *most furious & wood*

残酷さと無慈悲さを示す 2 つの形容詞 'cruel', 'vengable' が、また残酷さを示す 2 つの形容詞 'furious', 'wood' が 'most' により強められる。

更に FP において構成要素 5, Fortune の不実さを示す I . 3118, V . 578 の用例を見て下さい。

I . 3116-18 : Whan that Fortune is *fairest* off hir cheer

Bi apparence, and *most blandisshyng*,

Thanne is [she] *falsest* ech sesoun off the yeer.

V. 578 : *Falsest of truste whan she is most iocounde* ;

前者において3つの、そして後者において2つの最上級が一文中に用いられる。ここで Fortune の外面（顔）の美しさを示す形容詞‘fairest’, ‘most blandisshyng’, ‘most iocounde’は女神の本来の性格である不実さを一段と強める効果をもっている。

このように最上級の用法はリッドゲイトが *FP* の Fortune により強い悪意を抱いているようだと我々読者に推測させる。

次に、副詞 (ay, ever) + 形容詞の用法を考察しよう。*TB* において2つ、*FP* において11の用例を見出すことができる（資料5を見よ）。例えば次の如くである。

*TB* V. 16 : But Fortune, *ay* froward and peruerse,

*FP* III. 3007-08 : How that Fortune is *ai* fals & onstable,

*Ever* double, froward and deceyvable,

副詞 ay, ever は「絶えず」(=continually)を意味し、形容詞の性質を強める働きをする。これらの語は、*FP* の原典と比較すると、どうもリッドゲイトのものようである。即ち、作者の主観により付加された語のようである。従って、運命論研究の立場からそれらの語を重要視すれば、この用法は Fortune を悪魔視する作者の内的感情の現れを示すと考えられるので数の相違は余儀なく作者の運命観の展開を我々に推測させる。

以上、4節を要約すると次のように言うことができる。Fortune の性格を示す個々の単語使用に関する限り、図Ⅲ'に示されるようにリッドゲイトの Fortune に対する姿勢には一貫性があるようだ。だが、*TB* よりも *FP* の Fortune を一段と悪魔化しようと作者は最上級の用法を、また副詞 (ay, ever) + 形容詞の用法を *FP* の方に数多く用いている。

## 5 女神及び彼女の称号に冠する形容詞の分析

Goddess 及び彼女の称号 queen, lady に冠する形容詞 (epithet) に着目すると *TB* において11、*FP* において19の用例を見出すことができる（資料6を見よ）。この用例を修飾する形容詞の数ごとに分類すると次のようになる。

図Ⅴ

| 形容詞の数 \ 作品 | <i>TB</i>  | <i>FP</i>  |
|------------|--|--|
| 1          | I. 754, 755, II. 30, 45, 72, IV. 1081, V. 20, 635, 639 | I. 4537, 6071, III. 203, IV. 781, 1058, V. 566, 2822, VI. 919, 1268, 2517, VIII. 946, 2868, IX. 3459 |
| 2          | II. 54, 1863   | IV. 3351, VI. 203, VIII. 470, IX. 3530   |
| 3          |  | III. 153 <sup>15</sup> , IV. 998   |



黒瀬氏は称号に冠する形容詞は Fortune の素晴らしい肩書きを「呪いの言葉」('a term of curse') に変えていると述べる。<sup>16</sup> またパットナムは修辞技巧 'Epitheton' は人の心 (mind) に訴えるものであり意味を強く主張するのに役立つと言う。<sup>17</sup> さすれば、形容詞の数が増えれば増えるほど Fortune を悪魔視する作者の姿勢は強まっていくと言うことができそうだ。3つの形容詞が女神の称号に冠するのは FP においてだけである。

Ⅲ. 153 : This *stormy* queen, this *double fals* goddesse

Ⅳ. 998 : This *blynde* goddesse, *vnseur* & euere *vnstable*

更に FP における次の例文を見て下さい。

To be callid, be title off rihtwisnesse,

Off chaungis *newe* ladi & pryncesse (FP VI. 209–210)

'newe' という形容詞は FP の Fortune が TB の Fortune を含めて、今までの「変化の貴婦人」とは異なることを我々に推測させる。

## 6 運命の車輪に冠する形容詞の分析

運命の車輪自体にも女神の性格を表す形容詞が修飾している。TB において5つ、FP において8つの用例を見出すことができる (資料7を見よ)。この中で、特に注目すべきは FP における次の二つである。

Ⅵ. 365 : Thus bi thoppynyoun of thi wheel *most double*,

\* Ⅳ. 1972–74 : Hir *fatal* wheel *most dyvers* & *chaungable*,

With vnwar turn list nat hir cours to tarie

To throwe hem down ;

\* は Lenvoye (結句) の一文なのでリッドゲイト自身のものである。

両方とも最上級によって変わりやすい、不実な車輪の性質が強調される。おまけに、後者では 'fatal' という形容詞まで車輪に冠している。OED によると、その語は第6項で

producing or resulting in death, destruction, or irreversible

ruin, material or immaterial ; deadly, destructive, ruinous

と定義される。その語が死、破滅を暗示するので、上記の車輪にも Stanley L. Galpin が運命の車輪に対して提言した遠心力<sup>18</sup>が働いているようだ。

このように TB よりも FP の運命の車輪を一層悪魔的器具とみなそうとする作者の内的感情が 'most' 或いは 'fatal' という語の付加に幾分現れている。

## 結 語

本稿では Fortune の性格・性質を表す言葉や語句に的を絞り、作者の女神に対する意識を分析してきた。論点をまとめると次のようになる。

- 1) 形容詞を重ねることによって FP の Fortune の悪魔性がさらに強調される (3, 5 節)。
- 2) 形容詞に 'most' を数多く付加することによって FP の Fortune の悪魔性がさらに強調される (3, 4, 6 節)。
- 3) 'ay', 'ever' + 形容詞の用法が FP に数多く用いられる (4 節)。

上記の結果により、筆者はリッドゲイトの運命観の展開を、つまり TB よりも FP の Fortune を一段と悪魔視しようとする作者の意識を確信する。

## 注

\* 本稿は日本英文学会第40回九州支部大会 (於北九州大学, 1987年11月7日) において口頭発表した演題「運命の女神の悪魔化—リッドゲイト作『トロイの書』と『王侯の没落』との Fortune の比較」を改め、その内容に加筆修正したものである。

- 1) Philippa Tristram, *Figures of Life and Death in Medieval English Literature*, (London: Paul Elek, 1976), p. 141.
- 2) Henry Bergen, ed., *Troy Book* I—VI (London: The Early English Text Society, 1906—1920). 以下、本稿において『トロイの書』からの全ての引用はこの版による。
- 3) Henry Bergen, ed., *Lydgate's Fall of Princes* Vol. I—VI (1924, 1927; rpt. London: New York: Toronto: The Early English Text Society, 1967). 以下、本稿において『王侯の没落』からの全ての引用はこの版による。
- 4) 以下、引用文中におけるイタリックは筆者による。
- 5) Cf. Derek Pearsall, *John Lydgate*, (London: Loutledge & Kegan Paul, 1970), p. 142.
- 6) *ibid.*, p. 231.
- 7) Gladys Doidge Willcock and Alice Walker, esd., *The Arte of English Poesie* (1936; rpt. Cambridge: The University Press, 1970), p. 62.
- 8) Stephen Hawes, *The Pastime of Pleasure* (1928; rpt. New York: Kraus Reprint Co., 1971), II. 1373—74.: Cf. Alain Renou, "Attitudes Toward Women in Lydgate's Poetry," *English Studies*, XL II (1961), 4.; Lois A. Ebin, *John Lydgate* (Boston: Twayne Publishers, 1985), p. 140.
- 9) *The Arte of English Poesie*, pp. 152—153.; Cf. Masui Michio. "The Language of Love in Chaucer," *Studies in English Literature*, English Number (1960), 19.
- 10) Erwin Panofsky, "'Good Government' or Fortune: The Iconography of a Newly-discovered Composition by Rubens," *Gazette des Beaux-Arts*, 68 (1966), 311.; H. R. Patch, "The Tradition of the Goddess Fortuna in Medieval Philosophy and Literature," *Smith College Studies in Modern Languages* Vol. III, No. 4 (1922), 182: "The best Augustine can do for her is ironically to allow her a place as a demon"; Fredrick Kiefer, *Fortune and Elizabethan Tragedy* (The Huntington Library, 1983), p. 15.
- 11) 拙稿「リッドゲイト作『王侯の没落』における悪魔的怪物運命の女神」, 『西南学院大学大学院文学研究論集』第6号 (1987年3月) 及び「運命の女神の悪魔化—死神との関連を中心とする考察—」, *Quest: Studies in English Linguistics and Literature* No. 6 (1987) (西南英語英文学研究会), 17—27を参照。
- 12) *The Arte of English Poesie*, p. 148.

## 悪魔的 Fortune とリッドゲイトのその意識

13) James J. Murphy, ed., *Three Medieval Rhetorical Arts* (Berkeley ; Los Angeles : London : University of California Press, 1971), pp. 96–97.

14) 絶対最上級 (absolute superlative) の用法によって女神の悪魔的性格を強調する用例もある。TB, FP 双方に 3 つずつ用いられる。

TB I. 2258–59 : For þis lady of transmutacioun

Ful ofte tyme fals and *ful* vnstable,

II. 6 : And of her cours, fals & *ful* mutable,

II. 1863 : On þis goddesse, blind & *ful* vnstable,

FP II. 1690 : That fond also Fortune *ful* onstable ;

II. 4448–49 : Fortune tappalle the pris off his prowesse,

Made hym to be, in *ful* froward wise,

IV. 990 : Was to hym eek *riht* favourable & benigne

この絶対最上級の用法に関しては, Fernand Mossé, *A Handbook of Middle English* (1968 ; rpt. Baltimore and London : The Johns Hopkins University Press, 1983), p. 92. を参照した。

15) 同じ行にあるので筆者は III. 153 を 3 つの用例と考えた。

16) Kurose Tamotsu, *Goddess Fortune in John Lydgate's Works*, (Tokyo : Sanseido, 1980), p. 49.

17) George Puttenham によると sensible figures は心 (mind) に訴えるものである。修辞技巧 'Epitheton' はそれに属する。 *The Arte of English Poesie*, p. 178, 182 を見よ。

18) Stanley L. Galpin, "Centifugal Force Applied to Fortune's Wheel," *MLN*, 29 (1914), 197.

### 資料 1 Nouns applied to the character of the Goddess Fortune in *Troy Book*

| Words                                     | Occurrences                          |
|---|--------------------------------------|
| 1. Mutability, Variability, Bi-frontality |                                      |
| chaung                                    | II. 2600, III. 1980, V. 3547         |
| doubilness                                | II. 2031, 4264                       |
| mutabilite                                | II. 72, V. 1027, 2636                |
| variaunce                                 | II. 67, 311, 1874, IV. 3271, V. 2432 |
| transmutacioun                            | I. 755, 2258, II. 30, IV. 3013, 3509 |
| reuolucioun                               | I. 2257, III. 1980                   |
| 2. Fickleness, Inconstancy                |                                      |
| brotulnes                                 | III. 2016                            |
| 3. Blindness, Impartiality, Pride         |                                      |
| disdeyn                                   | II. 36, 43, IV. 2417, V. 1031        |
| 4. Playfulness                            |                                      |
| pleye                                     | II. 2070, 2031                       |

| Words                             | Occurrences                |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 5. Falsehood, Deceptiveness       |                            |
| deceytes                          | II. 12                     |
| fallas                            | II. 57                     |
| fraude                            | II. 57, 858                |
| 6. Mercilessness, Wickedness      |                            |
| malis                             | II. 414                    |
| ungoodlyhede                      | IV. 4271                   |
| wilfulnes                         | II. 3290                   |
| 7. Cruelty, Furiousness, Violence |                            |
| anger                             | V. 1030                    |
| cruelte                           | I. 777, II. 76, V. 423     |
| ire                               | II. 3243, 3281             |
| rancour                           | II. 43, 3284               |
| violence                          | II. 3243, 3286             |
| 8. Envy                           |                            |
| envy                              | I. 751, II. 413, III. 4084 |

資料2 preposition + adjective noun combination

*Troy Book*

- I. 2257 : By hir *gery reuolucioun*
- II. 3243 : Of mortal Ire and *gery violence*
- II. 3281 : Of *hasty Ire*
- III. 4084 : By *fals envie*

*Fall of Princes*

- I. 2994 : with a *sodeyn transmutacioun*
- II. 2959 : thoruh hir *froward envie*
- II. 4199 : thoruh hir *fals envie*
- III. 677 : With *onwar chaung*
- III. 4531 : Thoruh Fortunis *dreedful violence*
- IV. 740 : thoruh hir *fals envie*
- IV. 978 : bi *fals decepcioun*
- IV. 1981 : Bi *couert fraude*
- IV. 2919 : Bi *vnwar chaung*
- V. 1883 : With *sodeyn chaung* of fals felicite
- V. 2344 : Bi *fals errour*
- V. 2405 : Bi a maner of *deynous mokerie*
- V. 2833 : Thoruh Fortunys *froward variaunce*
- VI. 633 : Be my *contrarious mutabilite*
- VIII. 2601 : bi Fortunys *sodeyn violence*
- IX. 1700 : bi hir *fals variaunce*
- IX. 3033 : Be Fortunys *gery mutacioun*
- IX. 3044 : With hir most *stormy transmutacioun*
- \* IV. 1077 : Thoruh hir *vnwar, ougli, fals disdeynes*
- \* VI. 359 : Be thi *contreued fals mutabilites*
- \* VI. 364 : Bi thi *chaungable geri violence*
- \* IX. 443 : Bi hir *froward furious violence*

資料3 Adjectives applied to the character description of the Goddess Fortune in *Troy Book*

| Words                                     | Occurrences   | Words                             | Occurrences                             |
|---|---|-----------------------------------|---|
| 1. Mutability, Variability, Bi-frontality |   | 6. Mercilessness, Wickedness      |   |
| chaungable                                | III. 4078   | froward                           | II. 55, III. 2724, IV. 3272, V. 16, 421 |
| mutable                                   | II. 6, 3288, IV. 1080, V. 3547  | pervers                           | II. 55, V. 16                           |
| double                                    | I. 2251, II. 72, 3313, IV. 56, 1081, 3272   | vengable                          | II. 412                                 |
| variable                                  | I. 1236   | unmerciabie                       | II. 410                                 |
| variaunt                                  | II. 25  | vnkynde                           | II. 3282                                |
| 2. Fickleness, Inconstancy                |   | unswete                           | II. 895                                 |
| brotel                                    | V. 1026   | wilful                            | II. 54                                  |
| fickle                                    | II. 5   | 7. Cruelty, Furiousness, Violence |   |
| flekeryng                                 | II. 2   | cruel                             | II. 410, 1860, 3241                     |
| gery                                      | I. 754, 3357, II. 3243, 6676, III. 4077, IV. 1081   | furious                           | II. 3281                                |
| mevable                                   | III. 201  | reccheles                         | I. 754, II. 54                          |
| remewable                                 | III. 2017   | stern                             | II. 411                                 |
| unstable                                  | I. 2259, II. 5, 1863, 2027, 3287, III. 4077, V. 419, 1025   | stormy                            | II. 3240, III. 4079, V. 635             |
| 3. Blindness                              |   | wood                              | II. 3281                                |
| blynde                                    | I. 755, II. 5, 45, 1863, V. 20, 419   | 8. Envy                           |   |
| 5. Falsehood, Deceptiveness               |   | envious                           | II. 1, 3288, III. 1979                  |
| conterfet                                 | II. 18  | 9. Hastiness, Impatience          |   |
| deceyvable                                | II. 28, 409, 1864   | hasty                             | II. 3281                                |
| fals                                      | I. 2259, II. 2, 6, 28, 30, 45, 884, 3310, III. 1981, 2531, 4084, 4973, IV. 3237, V. 639, 1019, 2432 | sodeyn                            | II. 9, III. 1980, IV. 3273, V. 1029     |
| feyned                                    | II. 18  | unwar                             | III. 1981                               |

資料4 most + adjective, or, adjective + est

*Troy Book*

- II. 25-26 : And ȝit sum while, *most varriant* of hewe,  
Sche vn-to summe pretendeth to be trewe;
- II. 1862-1864: þat whan a man trusteth most souereynly  
On þis goddessse, blinde & ful vnstable,  
þan sche to hym is *most deceyueable*,

*Fall of Princes*

- I. 112 : Whan men most truste, than is she *most chaungable*

- I. 1841 : Than is she *falsest*, your glorie to deuoure  
 I. 1032 : Shewyng ay *trewest* whan she will begile  
 \* I. 3116-3118: Whan that Fortune is *fairest* off hir cheer  
                   : Bi apparence, and *most blandissyng*,  
                   : Thanne is [she] *falsest* ech sesoun off the yeer,  
 \* III. 317 : With the in armis, *most cruel & vengable*,  
 IV. 1045 : Than whan Fortune is *most blandisshyng*,  
 \* V. 578 : *Falsest* of trust whan she is *most iocounde*;  
 VI. 477 : Thou callest me stepmooder *most vnkynde*,  
 VI. 498 : As-scauns I am off maneres *most chaungable*,  
 VI. 1268 : This frowarde ladi, of malis *most vengable*,  
 VII. 2156 : Whan she to men sheweth *fresshest* hir visage.  
 \* VII. 3148-3149: But, for al that, the disposicioun  
                   Of Fate and Fortune, *most furious & wood*,  
 IX. 2921-2922: But of custum it is ay hir maneere  
                   *Fairest* tappeere with cheer and contenaunce,  
 IX. 3044 : With hir *most stormy* transmutacioun,

資料5 adverb(ay, ever) + adjective

*Troy Book*

- V. 16 : But Fortune, *ay* froward and peruerse,  
 V. 419 : *Ay* vnstable with hir eyen blynde,

*Fall of Princes*

- I. 1529-30 : She froward *euere*, or thei can takyn heede,  
                   Off hir nature will falsly hem be-gyle;  
 I. 2783 : To tell how Fortune, *ay* fals & transitorie,  
 I. 3023-24 : Off fals Fortune, whos fauour last no while,  
                   Shewyng *ay* *trewest* whan she will begile.  
 I. 3281 : And thoruh Fortune, *ay* double in hir werkyng,  
 I. 6317 : And bi hir cours, which *euere* is variable,  
 III. 3007-08 : How that Fortune is *ai* fals & onstable,  
                   *Euere* double, froward and deceyuable,  
 III. 3345 : Fortune that is *ay* variant & onstable,  
 IV. 998 : This blynde goddess, vnseur & *euere* vnstable,  
 V. 1146 : But that she is *ay* froward & chaungable,

- V. 1866 : But she that is of custom *ay* chaungable,  
 VIII. 3137 : The world [is] dyuers, Fortune *ay* chaungyng,

# 資料6 Adjective + Goddess or Her Title

## Troy Book

- I. 754 : þis lady *reccheles*  
 I. 755 : þe *blynde* goddesse of transmutacioun  
 II. 45 : þis *fals[e]* goddes with hir eyen blynde,  
 II. 30 : þis *fals[e]* lady of transmutacioun  
 II. 54 : And þus lady, *wilful recheles*  
 II. 72 : þis *double* lady of mutabilite  
 II. 1863 : On þis goddesse, *blind* & ful *unstable*  
 IV. 1081 : þis *gery* goddes with hir double cher  
 V. 20 : þis *blinde* lady falsly made flete  
 V. 635 : þis chaunteresse & þis *stormy* quene  
 V. 639 : þis *false* goddesse he[m] annon forsake

## Fall of Princes

- I. 4573 : This *blynde* goddesse in hir consistorie  
 I. 6071 : This *blynde* goddesse gan gym to assaile  
 \* III. 153 : This *stormy* queen, this *double fals* goddesse  
 III. 203 : Atwen Glad Pouert & this *blynd* goddesse  
 IV. 781 : She gan tauale hym, this goddesse *merciles*,  
 \* IV. 998 : This *blynde* goddesse, *vnseur* & euer *vnstable*,  
 IV. 1058 : This *gerissh* queen, of cheer & face double,  
 IV. 3351 : But Fortune, the *blynde fals* goddesse,  
 V. 566 : The *geri* goddesse, among hir chaunges alle,  
 V. 2822 : That *blynde* ladi so made hir poweer strechche  
 VI. 203 : Calle me thanne the *froward fals* goddesse  
 VI. 919 : This *gerissh* ladi of condicioun  
 VI. 1268 : This *frowarde* ladi, of malis most vengable  
 VI. 2517 : The *Blynde* Ladi hath ther non interesse  
 VIII. 470 : This ladi Fortune, þe *blynde fell* goddesse,  
 VIII. 946 : This *cloudi* queen stant euer in noun certeyn,  
 VIII. 2868 : This *double* goddesse envied at his glorie  
 IX. 3459 : This *blynde* lady, how she made hem declyne

IX. 3530 : Off worldly peple a *fals froward* goddessse,

資料7 Adjective connected with the Wheel of Fortune

*Troy Book*

II. 3287 : Hath with a swyze turned hir whele *vnstable*,

III. 200-01 : But as Fortune turneth vp & down  
Her whel *mevable*, hiȝe and aftir lowe,

III. 1979-81 : þoruȝ her envious disposicioun  
Of sodeyn chaunge and reuolucioun,  
And vnwar tournyng of hir *false* whele,

IV. 54-56 : And laud also, pris, and reuerence  
Be to Forutne þat vs hath golp[e] wele  
With þe turnyng of hir *double* whele,

V. 1024-1025 : But at his torne þat he shal descende,  
Whan he sit hiȝest on in *vnstable* whele, ...

*Fall of Princes*

IV. 1907-08 : Fortunys gifftis be nat ay iliche,  
In hir *fals* wheel ther is such variaunce.

\* IV. 1972-74 : Hir *fatal* wheel *most dyuers & chaungable*,  
With vnwar turn list nat hir cours to tarie  
To throwe hem down;

IV. 3734-35 : Til that Fortune at myscheeff dede hym faille;  
He lakked myht hir *variaunt* wheel to naille.

V. 432-434 : Whos cours of custum stoundemeel doth varie,  
Bexperience it hath be preued weel,  
In the ouerwhelmyng of hir *vntrusti* wheel.

VI. 260 : The[i] sette no stoor be thi *double* wheele,

\* VI. 365 : Thus bi thoppynyoun of thi wheel *most double*,

VIII. 946-47 : This cloudi queen stant euer in noun certeyn,  
Whos *double* wheel quauereth euer in doute,

IX. 3533 : Whan they sat hyh on hire *vntrusty* wheel.

(昭和63年 8 月30日受理)